



そして、日ぐれも近く、馬もそろそろ疲れてしまったのか、いくら追っても、ごね

て一歩も動かなくなってしまうました。源工門がとほうにくれていると、どこかできたことのあるかわいい子供が近づいてきました。子供は源工門に声もかけず、田の中にジャブジャブと入ってくると、馬のはな面に手をかけ、いかにもなれてる手つきではな取りをはじめました。

すると、馬は今までとうっかわったように、元気に動きだし、源工門がそろそろまがるころと思うまえに、ヒヨイツヒヨイツと、右に左に動き、代かきは日のくれる前に、またたくまにかたづいてしまいまし